

6月に入り気温が上がってきましたね。もうすぐ夏ですね。夏休みの計画は立てられたでしょうか。海外旅行をされる方もいると思いますが、旅行先によっては日本でかからない病気にかかることがあります。特にここ数年は、ジカウイルスが世界的に問題となっています。流行地域へ旅行を予定している方は、予防を心がけましょう。

●ジカウイルス感染症とは？

ジカウイルス感染症は、ジカウイルス病と先天性ジカウイルス感染症のことをいいます。ジカウイルス病は、ジカウイルスが感染することにより起こる感染症です。症状（発熱、発疹、結膜炎、関節痛、筋肉痛、倦怠感、頭痛など）は、2～7日続いた後に治り、予後は比較的良好です。ジカウイルスに対する特有の薬はないため、対症療法となります。

ジカウイルスは母体から胎児への感染を起こすことがあり（先天性ジカウイルス感染症）、小頭症などの先天性障害を起こす可能性があります。

●どのようにして感染するのですか？

ジカウイルスを持った蚊がヒトを吸血することで感染します。基本的に、感染したヒトから他のヒトに直接感染するような病気ではありませんが、輸血や性行為によって感染する場合もあります。

アフリカ、中南米、アジア太平洋地域で発生があります。特に、近年は中南米等で流行しています。日本国内で感染した症例はありませんが、海外の流行地域で感染し発症した症例が、2013年以降国内で見つかっています。ネッタيشマカとヒトスジシマカは、ジカウイルスを媒介することが確認されています。



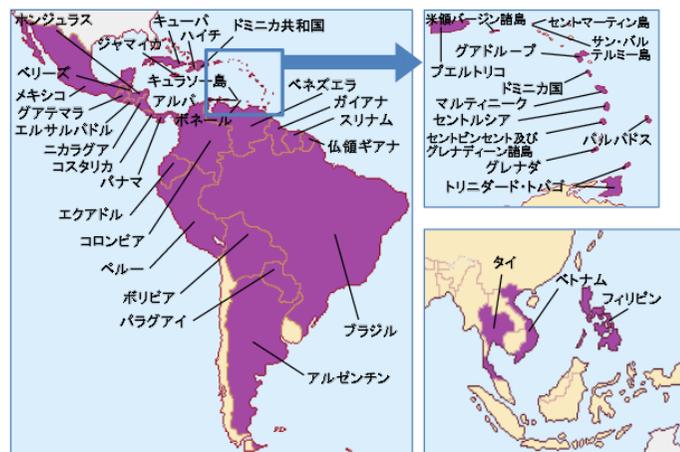
<ネッタيشマカ>
ジカウイルスを媒介しますが、日本に常在しません。



<ヒトスジシマカ>
日本のほとんどの地域（秋田県および岩手県以南）で見られます。

<ジカウイルス感染症流行地域>

アフリカ、中央・南アメリカ、アジア太平洋地域で発生があります。特に、近年は中南米等で流行しています。詳しくは厚生労働省のホームページをご参照ください。



(2016. 5. 27 現在 中南米及びアジアにおける流行地域)



●妊婦や胎児にジカウイルス感染症はどのように影響しますか？

妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症との関連が示唆されています。妊婦及び妊娠の可能性のある方は、可能な限り流行地域への渡航を控えてください。世界保健機関（WHO）は、妊婦は流行地域への渡航をすべきでないことを勧告しています。

●流行地域へ渡航をする場合は、どのように予防すればよいですか？

海外の流行地域にでかける際は、蚊に刺されないように注意しましょう。長袖、長ズボンの着用が推奨されます。また蚊の忌避剤なども利用されています。

国内では、「ディート」や「イカリジン」を成分とした忌避剤が市販されており、中南米の蚊にも効果があります。製品の忌避効果は、蒸発、雨、発汗などにより持続性が低下するので、一定の効果を得るためには、定期的に再塗布することが必要です。



●海外旅行中に流行地域で蚊に刺された場合はどこに相談すればよいですか？

すべての蚊がジカウイルスを保有している訳ではないので、蚊に刺されたことだけで過分に心配する必要はありません。

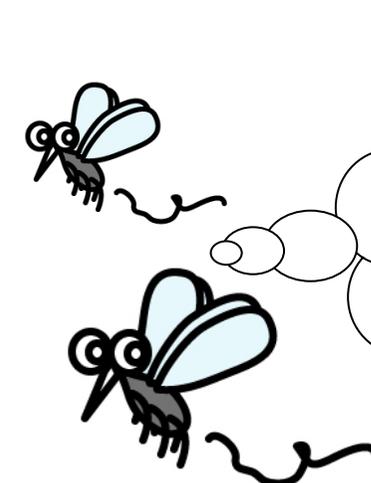
心配な場合は、帰国された際に空港等の検疫所で相談しましょう。また、帰国後に心配なことがある場合は、最寄りの保健所等に相談してください。なお、発熱などの症状がある場合には、医療機関を受診してください。

●日本国内でジカウイルスに感染する可能性はあるのでしょうか？

仮に流行地域でウイルスに感染した発症期の人（日本人帰国者ないしは外国人旅行者）が国内で蚊にさされ、その蚊がたまたま他者を吸血した場合に、感染する可能性は低いながらもあり得ます。

ただし、仮にそのようなことが起きたとしても、成虫は冬を越えて生息できず、限定された場所での一過性の感染と考えられます。

（ヒトスジシマカは卵で越冬しますが、ジカウイルスがその卵の中で越冬するという報告はありません。）



ヒトスジシマカは、日中、野外での活動性が高く、活動範囲は50～100メートル程度です。国内の活動時期は概ね5月中旬～10月下旬頃までです。



(厚生労働省の啓発ポスター)

<参考>

厚生労働省HP (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000109881.html>)